

立正安國

國

立正安國論

攘客來嘗自近至近日
天變地支飢饉疫病遍滿天
下墮道地上半馬銃火卷燒
死路石死之煙既起未半不悲之
族敵元一人無間或重利而即
是之文唱而教主名飛脣



背景写真文字 原文：国宝 立正安國論 日蓮大聖人御真筆 千葉・正中山法華経寺

今を遡ること七五〇年、宗祖日蓮大聖人は「立正安國論」の中で、為政者を強く糾弾し、民衆に對し諫言されました。実乗の一善に帰せよ、鎌倉時代の日本は大地震や暴雨、飢饉や疫病などが日常連続して発生し、民衆は困窮し苦悩を極めていました。

その惨状を悲しまれた宗祖は、災難の原因を人心の荒廃、特に悪法が日本に充満しているからであると究明され、眞の教えである法華經を信仰しなくては、更なる災難が起こるであろうと警鐘されました。

現代においても、人心は荒廃し凄惨な事件や犯罪が絶えません。地球温暖化による異常気象や自然災害。そして新たな疫病の発生、経済の破綻など、人々の生活は危機的状況にあります。

宗祖は今も叫ばれています。
汝早く信仰の寸心を改めよ」と。
そして唱え続けられています。

「南無妙法蓮華経…

平成二十一年七月十六日 立正安國論進覧七五〇年



法華宗